世にも不思議な減税

泣き面に蜂の低額所得者

積極政策を看板にした石橋内閣の誕生で、勤労者。低額所得者層からは散々の不満をもつて迎えられた臨時税制調査会の一千億円減税構想すら一時は「お流れか」ともみられたが、世論の力と選挙対策とがからんで政府は一千億円の減税を約した。これで再開国会には政府、自民党、社会党の三減税案が登場することになつた。それぞれの内容はかなりの開きがあるが勤労所得税について政府案、自民党案とも調査会案に若干の手直しを加えただけで完全に同じもので減税額も双方とも平年度一千億円となつている。これに対し社会党案は低額所得者の減税に重点をおき、減税額は千二百億円となつている。もつとも政府の一千億円減税は片方で運賃と米価の引上げをやるのだから、結局額面通りの減税にはならない。

計算上はなかなかいいが…（政府案）

勤労所得税について、政府・与党案と社会党案を対比して検討すると次のようになる。

(1) 課税最低限（無税となるところ、年所得）

現行　二四六、六六七円（五人世帯）

政府　二六九、七四四円（〃）

社会党三三一、四二八円（〃）

(2) 税額（標準家族＝五人世帯の場合）

年所得三十万円の場合、政府案では現行の六、五〇〇円が二、三九〇円となり、四、一九〇つまり六三、二％の軽減となる。もちろんこれは、この減税案を平年度化した場合である。実施は四月からとしているので三十二年度では三、二五一円の減税でその割合は四十九、九％である。以下同様に各所得別に平年度の税額をみると次の通りである。

所得	平年度税額	軽減割合
四〇万円	一二、七三三円	四八、〇％
五〇万円	二五、九四七円	五〇、九％
七〇万円	六〇、七九〇円	四八、三％
一〇〇万円	一二六、二〇〇円	四五、八％

これに対し社会党案では三〇万円は第一項でみた通り無税であり、四十万円では九、五〇〇円で六一％の減税となる。そして四七万円級以上からは政府案より順次減税が少くなり二〇〇万円以上の高給者は現行よりも高くなる。政府は中堅以上にウエイトをおき、社会党は低額所得層においたのであるが、三十万円以下の低所得層は人員にして六八％をしめ、その所得は四八％である。

運賃、米価の値上げで減税差引き

ところで先にのべた通り政府案は片方で米価運賃の値上げを策しているので、これが減税にどう響くだろうか。米が十八円五十銭上り運賃が一割上るとして標準家族について、総理府統計局の家計調査からはじき出すと、年収二十万円の場合＝無税であるから改めて減税の恩典はなく、逆に一カ月米で百二十九円、運賃で十七円計百四十六円が支出増加となる。三十万円の人なら月三百四十円の減税だが、米と運賃の支出増が百六十円差引百八十円助かるだけ、五十万円の場合は同じく百六十円の差引で手取りは二千八百十六円。七十万円なら二百十五円の支出増だが減税は四千七百四十七円もあるからたいしたことはない。つまり一番低いところは増税になり、三十万級では減税割合が四八、〇％だつたが、実際はこの半分しか減らない。そして五十万円以上の高給者ならほぼ額面通り減税されるのである。

やっぱり保守ネ

ではこの政府の米と運賃の値上り抱合せの減税にたいしてヤマの主婦たちはどう考えているだろうか十五日の金曜日に三川と四山で聞いてみた。

三川一主婦　一千億減税されても私たちの今貰つている給料では関係ありません。採炭の中でも高給取り以外は一般の人には潤おわないと思います。こういう減税では一つも有難くなく米の値上りは必ず他の物資も上ると思われます。もつと大衆のためになる政治をしてもらいたいと思います。

三川鉱主婦　もつと政府は労働者のことを考えて欲しい。署名運動でもよいから、主婦の立場で反対したいと思います。

四山一主婦　米だけ上るのなら何とか考えようが、必ず諸物価は上ると思います。結局今度の減税は勤労者を対象でない、わたしたちのことをもう少し考えてもらいたいと思つています。結局保守党の政府ではそんなことは望めないので、一日も早く社会党が政治をとるようにみんなで頑張らなければならないと思いました。

「入選二席」

汽車を待つ子

三作支部　大坪勝夫

現地採用五四名

港沖竪坑掘さく開始へ

港沖竪坑は四山鉱の通気改善の目的で、初島につぐ第二人工島として昭和二十七年十月に起工。二十八年八月人工島の完成をみて、さらに第四紀層の掘さくを井筒沈下法によつて昭和三十年五月より着工、一九五、九二米の掘さくを昭和三十年十一月に終つていたものである。

こんど三井建設による第三紀層の岩盤掘進は、さらに四八二、七八米の掘進で昭和三十四年六月の完成後は四山の通気状況は一段とよくなり労働条件は改善される。

該当は組合員の親子兄弟

三井建設の請負工事についてはいままで組合、会社間で数回交渉が行われており、当初会社では掘さく工事（一二〇米、以後だんだん掘進）を三井建設に請負わせ一月十日から着手させたい意向だつたが交渉がまとまらず延期しているまた現地採用人員も当初四十五名と発表されたが数回の交渉の後、最終的に会社は現地採用人員は五十四名とする。保安の問題については三池の保安機構で管理する。

井筒沈下法による第四紀層の掘さくを終え、岩盤掘進の準備をすすめていた港沖竪坑は、いよいよ三井建設の手によつて一月より掘進を開始し、昭和三十四年六月に終了の見込みで開始されることとなつた。

港沖竪坑は四山鉱の通気改善の目的で、初島につぐ第二人工島として昭和二十七年十月に起工。二十八年八月人工島の完成をみて、さらに第四紀層の掘さくを井筒沈下法によつて昭和三十年五月より着工、一九五、九二米の掘さくを昭和三十年十一月に終つていたものである。

こんど三井建設による第三紀層の岩盤掘進は、さらに四八二、七八米の掘進で昭和三十四年六月の完成後は四山の通気状況は一段とよくなり労働条件は改善される。

該当は組合員の親子兄弟

三井建設の請負工事についてはいままで組合、会社間で数回交渉が行われており、当初会社では掘さく工事（一二〇米、以後だんだん掘進）を三井建設に請負わせ一月十日から着手させたい意向だつたが交渉がまとまらず延期しているまた現地採用人員も当初四十五名と発表されたが数回の交渉の後、最終的に会社は現地採用人員は五十四名とする。保安の問題については三池の保安機構で管理する。

第三に従業員の子弟に限る。また健保、労災、失業保険関係は三井建設で処理するということでいずれも諒解点に達している。労働条件については組合員の子弟が働くのだから、三鉱組合員と大きな差があつては困るということで交渉を待ち会社の考え方を質したところ、坑外平均三百円、坑内同六百円（一日掘進量約一、八〇米）の基準が示され検討したが、新港竪坑の実績からみて大体よかろうと判断し応諾解されたが、しかし坑内の場合具体的な労働条件について若干疑義があるので交渉の余地が残されている。

従業員の子弟という問題について執行部としては何分わくが五十四名に限られているので「従業員の親子兄弟」に絞り、また受付は組合の窓口を通じるようにしたいなどの交渉の諸点については去る十七日の第十五回中央委員会で執行部に一任されることになつた。

なお、採用、解雇は一方的に行わず労働時間は八時間を基準に六百円、三百円の線を下廻ることのないように確約させるよう組合では考えている。

鉱業學校で募集

願書提出は二月九日迄

三井鉱業学校では例年行う募集要項をつぎの通り発表しております受験希望者は左の要領で手続きをして下さい。

一、募集人員　採鉱科九十名　機械科三十名　電気科三十名

二、応募資格

(1)三十二年三月中学卒業見込の者

(2)身体強健、学術優秀、性向善良な者

(3)本校卒業後三池炭鉱の作業に就業の意志がある者

(4)徒歩通学可能な者

三、募集手続

募集　中学校長打合会（募集要項説明）一月十四日十三時　於本校

手続　入学願書　自筆内申書　学校長親展　縁故証明書　人事係長で三親等以内の親族、いん族の証明　入学志願者票（受験番号票）　名刺型半身写真

四、入学願書の提出期間

一月二十八日より二月九日正午まで

五、入学選衡

二月十七日第一次選衡（学科試験）於大牟田商高校

社会、国語、理科各六十分

数学一時間四十分

二十一日第一次合格者発表　十三時本校において

二十二、三日第二次選衡

身体検査及び体力テスト

二十七、八日第三次選衡

面接試験

三月四日　合格者発表

十三時本校において

なお今回は三池製作所関係として別科生二十五名を新しく募集しています。試験課目、手続きなどは上記に準じて取扱いますが、試験場所、身体検査、面接の期日が一部変更になることがあります。また受験は鉱業学校、別科生のいずれか一方しかできません。

親子二代

スポーツ一家

未だに不敗の記録

瀬工場の山下武雄氏（44）といえば長距離ならしたベテランで、三池のスポーツ・ファンをうならせた人を想い出すだろう熊本農学校在学中十八才のときから本格的にやりだし、翌十九才のときには第一回の明治神宮大会へ出場している。当時この大会は一年おきに行われていた二十一才のときも同大会に出場したがこれを最後に軍隊への門へ消えて行き、一時スポーツから離れざるを得なかつた。

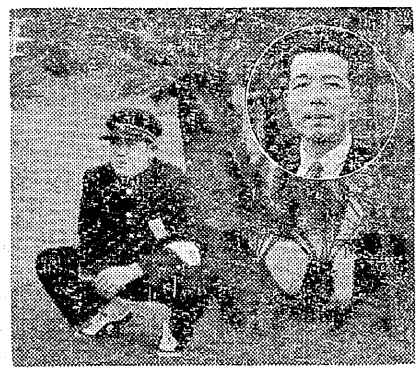
入社は昭和十一年十一月、二十才のときだ。当時は共愛会の主催で久留米、福岡間のマラソンが行われていたが、この大会には三池、山野とか八幡製鉄など多数の会社が選手を出場させていた。

とくに記録に残るのは昭和十四年に千五百米に打立てた四分十九秒二の記録で、これは現在に至るまで未だに敗られていなく後輩へ大きな示唆を与えている翌年には全九州学生対抗にも出場千五百、六百、五百と輝く三種目優勝とその馬力振りを示している。また西日本選手権大会にも出場するなど多彩なスポーツマン生活を過して来た。

戦後も二十一年に全日本選手権大会に出場、大いに三池の気を吐いている。優勝カップだけでも六つ持つており、一試合にメダルなどは四つ平均は軽く試合毎とつてきたというから驚かされた。本人は走つていなければ良い記録は出ないといつている。親の諍でもあり、父親の抱負も一流選手に仕立てるのが何よりも望みと語つているほどだ。

親子そろつて毎日縄飛びのトレーニングに励んでいる姿も微笑ましく今年は親子そろつて国体（父はOBで）へ出たいと希望をチヨツピリもらしている。

現在では三作支部濃施地域の分会長であり、いままで委員も歴任しており、奥さんのチカさんも主婦会三作支部副支部長として、夫婦地域で頑張つている。



期待される篤君（円内は武雄氏）

案＝五反田藤夫

一千万の署名で反動運動へ

「機関紙通信」政府は八日の閣議で消費者米価の値上げを三十二年度予算編成方針として決定したが全国食糧対策連絡協議会（参加団体は総評、全労、中央農業会議、婦人団体連合会、生活協同組合連合会）では十日東京有楽町の農協会館で常任幹事会をひらき、一千万人の街頭署名など全国的な反対運動方針を協定し「消費者米価の値上げは一千億減税に口をかりてそのシワ寄せを国民大衆に負わせるものだ」との声明を出した。決定された反対運動方針はつぎの通り。

(1)全国いつせいに日を決めて一千万人の反対署名運動を展開する。これには運賃値上げ反対、郵便料金値上げ反対、インフレ政策反対もあわせて行う。(2)各府県一カ所以上で全国遊説演説会をひらく。(3)二月末か三月はじめごろ中央国民大会を開催する。これには各府県表彰も参加する。(4)都内バス・オンパレードを行い農林大臣交渉を行う。(5)二月にひらかれる米価審議会に対し「食管会計の赤字は一般会計で負担するのが当り前だ」との働きかけを行う。

総評でも反対聲明

総評は九日、持ち廻り常任幹事会をひらき、消費者米価値上げの閣議決定に反対の声明を発表した。

"祖國復帰"の闘い

住民の意志しめした那覇市長戦

日本の国連加盟後初の新年を迎えた沖縄では、祖国復帰の運動が一層高まつているが、アメリカの軍当局は沖縄全島の永久基地化の態度をあきらかにして、不当な干渉や圧迫で住民をおどかしつけている。

とくに暮の二十六日、空席となつていた那覇市長に人民党書記長瀬長亀次郎氏が当選するや、その策動はますますロコツさを加えてきた。瀬長氏の市長当選は「四原則貫徹と祖国復帰の実現を願い、沖縄住民を異民族の支配下に置く努力との闘い」のなかで、生活権を守ろうとする住民の意志の現われであつた。このことは瀬長氏一万六千六百票、仲井間宗一氏（保守派）一万四千六百票という獲得票数にもあきらかである。人民党市長の出現でまつたくうろたえしたアメリカ軍当局は、瀬長氏けおとしのために、あらゆる策動をつづけた。その手はじめに「人民党を非合法化して就任を拒否すべきだ」と当間主席とバーシャ民政官が話しあい、十二月二十七日にはアメリカ軍が管理権をもつ琉球銀行で、那覇市に対する支払いを一さい停止した。このためすべての建築工事費の支払いが停り、市吏員の給料支払いにも支障が生じ市政運営が困難になつている。さらに助役をはじめ全部課長・市会議員に協力を拒否させるなど、アメリカ軍と民政府は民主主義のルールを全く無視する圧政をほしいままにしている。

米軍永久基地化狙う

一月三日にはアメリカ極東軍司令官レムニツツアー大将が沖縄に飛び、「防共体制強化」を叱ダし、翌四日に琉球の土地問題について「地代の一括払い」を声明して、プライス勧告による永久支配と住民の団結きりくずしにかかつてきた。声明によると

▼土地の賃貸料を約三倍にひきあげる。

▼現在米軍使用中のものでも不要な土地はできるだけ返還し、新規接収も最少限度にとどめる。

▼地代は一括払いを実施する。

などを明かにしている。とくに「一坪でも土地に対して所有権あるいは永代借地権を取得しない」といつているが、昨年暮の久志村接収の契約には、それとまつたく反する事実があり、住民たちを憤激させている。

久志村野辺吉部落の新規接収は七十六万八千坪であるが、「米国政府と琉球政府間で契約をおこなう」土地収用の規定さえ無視して、米軍沖縄地区工作隊長と久志村村長との間に、こつそりきめられたものである。しかもなお契約文書には「フイ・シンプル（永代借地権）によつていかなる不動産権も米国政府の要請に応じてひきわたす」こと、賃貸料のいつさいの権限を村長にあたえることを決めている。これらは昨年夏にだされたプライス勧告と、年始めのレムニツツアー声明にあきらかな「一括払い」による土地取あげ、永久基地化の積極政策の現れであるだろう。

国民感情の精神に反してまで沖縄を信託統治制度にしばりつけるアメリカの政策に対する批判は、再びきびしい国民の世論となりつつあるが、「祖国復帰」を願う住民の問題解決のためには困難なたたかいの年となるだろう。